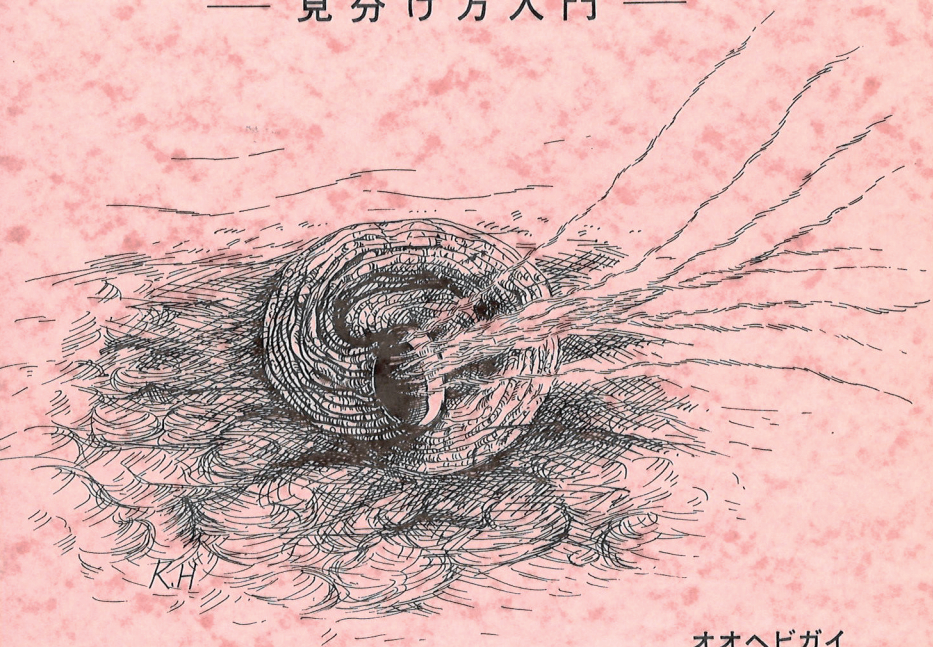


ミニガイドNo.11

大阪湾の磯の貝

— 見分け方入門 —



オオヘビガイ

大阪市立自然史博物館

ミニガイドNo.11

大阪湾の磯の貝

— 見分け方入門 —

大阪市立自然史博物館

図版 I. ツタノハガイ科・ユキノカサガイ科



ベッコウガサガイ



ヨメガサガイ



マツバガイ



カモガイ



コガモガイ



ウノアシガイ

図版Ⅱ. ユキノカサガイ科・コウダカカラマツガイ科



アオガイ



サクラアオガイ



クサイロアオガイ



コウダカアオガイ



カスリアオガイ



ホソスジアオガイ



クモリアオガイ



キクノハナガイ



カラマツガイ

目 次

海辺は待っている・用語解説	1
《腹足類》	
ミミガイ科 (アワビ類)	2
スカシガイ科 (オトメガサガイ, スソカケガイ, ヒラスカシガイなど) ...	3
“笠形貝類”の検索	4
ツタノハガイ科 (ヨメガカサガイなど)	4
ユキノカサガイ科 (アオガイなど)	4
コウダカカラマツガイ科 (カラマツガイ, キクノハナガイ)	4
〈磯観察の心得 (予定の立て方)〉	5
ニシキウズガイ科 (ガンガラやイシダタミ類)	6
リュウテンサザエ科 (スガイ, サザエなど)	10
アマオブネガイ科 (アマガイ, アマオブネガイ)	11
〈磯観察の心得 (危険防止)〉	11
カワザンショウガイ科 (ヘソカドガイ属の1種)	12
タマキビガイ科 (タマキビガイ, アラレタマキビガイなど)	12
ムカデガイ科 (オオヘビガイ)	13
ウミニナ科 (ウミニナ)	13
スズメガイ科 (キクスズメガイ)	13
カリバガサガイ科 (アワブネガイ, シマメノウフネガイ)	13
タカラガイ科 (メダカラガイ)	14
フジツガイ科 (ウネボラ)	14
アクキガイ科 (レイシ, イボニシなど)	15
タモトガイ科 (ムギガイ, ボサツガイなど)	16
エゾバイ科 (イソニナ, シワホラダマシ)	17
オリイレヨフバイ科 (ヨフバイ)	17
イトカケガイ科 (ネジガイ)	17

《二枚貝》

クルミガイ科 (マメクルミガイ)	18
フネガイ科 (エガイなど)	18
〈大阪湾の磯ガイド〉	19
イガイ科 (ヒバリガイ, ムラサキイガイなど)	20
ウグイスガイ科 (アコヤガイ)	22
ナミマガシワガイ科 (ナミマガシワガイ)	22
イタボガキ科 (カキ類)	23
トマヤガイ科 (トマヤガイ)	24
コフジガイ科 (コハクノツユ)	24
マルスダレガイ科 (ウチムラサキ, アサリなど)	24
イワホリガイ科 (セミアサリ)	26
キヌマトイガイ科 (キヌマトイガイ)	26
クチベニガイ科 (クチベニデガイ)	26
ニオガイ科 (ニオガイ, カモメガイ)	26
和名索引	27
参考文献	28

海辺は待っている

海辺に出かけて

何も考えずに潮が満ちてくるのを待つのもいい。
ワカメやガンガラを袋いっぱい集めるのも楽しい。
子どもたちとあそぼうか。
弁当をひろげようか。

海辺はあなたを待っている？

海辺にすがってけんめいに生きる数百の種族の魂たち。
だれひとりとしてあなたを信じて待っている者などいない。
あなたたちの力は呆れるほど巨大だ。
1日のうちに根こそぎかれらを窒息させてしまうことができるし、
この海でも幾度となくそれを繰り返してきた。
けれど

あなたたちはどれだけのことを知っている？
栄えある生を受けたものはすべて、己がために身を守り、
恋のために身を削ろうとする。
海辺の数百の種族たちも、せめぎ合い、からみ合い、
競争と淘汰を重ねながら連綿と生を継いでいる。
かれらが紡ぎだしている生きざまと、その糸が織りなしている絵模様を
もっとよく知ってほしい。
そうすれば

あなたたちのやりかたも変わってくるかもしれない。
そんな日を、海辺は待っている。

用語解説

潮間帯 潮が満ち引きする範囲。満潮線と干潮線との間。

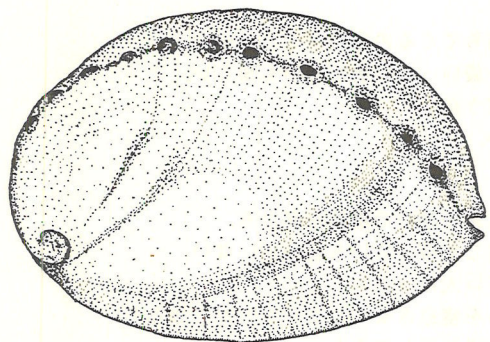
高潮帯 満潮線以下、潮間帯の上位の部分。

中潮帯 潮間帯の中位の部分。

低潮帯 潮間帯の下位、干潮線にいたる部分。

飛沫帯 満潮線のすぐ上の、波しぶきがかかるところ。

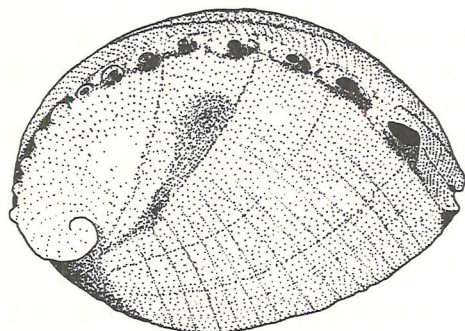
潮下帯 干潮線より下の、つねに水面下にあるところ。



穴は4~6個

クロアワビ

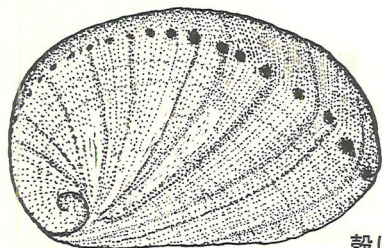
穴の周囲は管状
足の裏が黒い



穴は6~10個
管状にならない

マダカアワビ

穴は煙突のようにそそり立つ
足の裏は褐色



殻は平たい

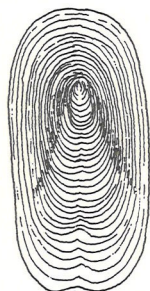
トコブシ

〈スカシガイ科〉

実物の約2～3倍

オトメ
ガサガイ

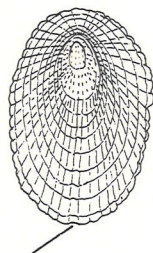
殻は白色



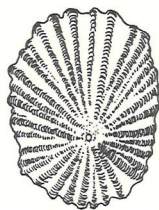
へこむ

シロスソ
カケガイ

殻は白色



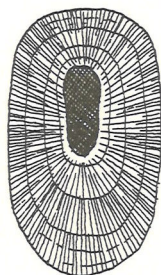
切込みはほとんど不明



スソカケガイ

強い放射肋

わずかに切込む



ヒラスカシ
ガイ

殻の中央付近に
大きな穴
模様はさまざま

【ミミガイ科】

■クロアワビ *Haliotis discus discus* : 潮下帯の岩陰や転石の裏に生息。よく潮が引いた時に見つかる。

■マダカアワビ *Haliotis madaka* : クロアワビより深い場所に生息する。めったに見られないが、殻が時々打ち上がる。

■トコブシ *Haliotis diversicolor aquatilis* : 干潮線付近の転石の下にすむ。転石を返すと簡単にはずれてしまうことから“ナガレコ”と呼ばれる。

【スカシガイ科】

■オトメガサガイ *Scutus sinensis* : 干潮線付近の岩上にすむ。軟体部は黒っぽい。

■スソカケガイ *Montfortula pulchra picta* : 波当たりの強い場所の高潮帯の岩上に見られる。

■シロスソカケガイ *Tugali decussata* : 干潮線付近の転石に付着する。大阪湾では稀れ。

■ヒラスカシガイ *Macroschisma dilatata* : 低潮帯の転石下に生息。数個体が集合していることがよくある。

“笠形貝類”の検索 (図版 I・II 参照)

1. 殻の内面に真珠光沢がある (ツタノハガイ科) 2
 —— ない 4
2. 殻表に朱色の放射模様がある マツバガイ
 —— ない 3
3. 背が高い ベッコウガサガイ
 —— 低い ヨメガカサガイ
4. 殻は左右相称 (ユキノカサガイ科) 5
 —— 不相称 (コウダカカラマツガイ科*) 14
5. 殻の内面は白色 6
 —— 青色またはピンク 7
6. 殻の輪郭は多角形 ウノアシガイ
 —— 卵形 コガモガイ
7. 背が著しく高く、殻の表面はごつごつしている カモガイ
 背は普通か低く、殻の表面はざらざらか平滑 8
8. 背は著しく低い 9
 —— 普通 10
9. 殻の内面は青色 アオガイ
 —— ピンク サクラアオガイ
10. 足の裏が白い。殻内面の周縁には茶色と白の交互の模様ははっきりと並ぶ
 クサイロアオガイ
 足の裏には色素が沈着する。殻内面の周縁は単色か不規則な模様のみ 11
11. 殻表の中央部には白線模様が放射状に発する ホソスジアオガイ
 —— ない 12
12. 殻表の顆粒はとげ立つ カスリアオガイ
 —— たない 13
13. 殻表の顆粒は幅広いこぶ状 コウダカアオガイ
 —— 細長く、互いにつながる傾向がある クモリアオガイ
14. 殻は堅固で、白く太い放射肋が発達する キクノハナガイ
 殻はもろくこわれやすい。太い放射肋はない カラマツガイ

* 有肺亜綱に属する本科は、分類学上の配列では、ここに位置する他の 2 科 (前鰓亜綱) とはまったく別の位置におかれるが、本書が同定の入門書であるという性格上、よく似た外観どうしの“笠形貝類”として、ここにまとめた。

【ツタノハガイ科】

■ベッコウガサガイ *Cellana grata grata* : やや大形種。高潮帯の波当たりの強い所にだけ生息する。

■マツバガイ *Cellana nigrolineata* : 大形種。潮間帯の広い範囲にわたって普通に見られる。岩陰を好む。

■ヨメガカサガイ *Cellana toreuma* : 中形種。潮間帯の広い範囲にわたってごく普通に見られる。岩の表面に多い。

【ユキノカサガイ科】

■ウノアシガイ *Patelloida saccharina lanx* : 小形種。鶺鴒(ウ)の水掻きのついた足に似ているのでこのような名が与えられている。岩上の平坦面に多く見られる。

■カモガイ *Collisella dorsuosa* : やや大形種。急深な水際にそそりたつ岩壁の飛沫帯が生息場所。消波ブロック上からも見つかることがある。

■コガモガイ *Collisella heroldi heroldi* : 小形種。潮間帯の広い範囲にわたって普通に見られる。

■コウダカアオガイ *Nipponacmea concinna* : 中形種。高～中潮帯に普通に見られる。

■カスリアオガイ *Nipponacmea radula* : 中形種。高～中潮帯の転石や岩上に見られる。

■クモリアオガイ *Nipponacmea nigrans* : 中形種。中潮帯の転石下に生息。

■ホソスジアオガイ *Nipponacmea teramachii* : 中形種。中～低潮帯の転石下に生息。

■クサイロアオガイ *Nipponacmea fuscoviridis* : 中形種。高潮帯の直接波が当たる露出した場所を好む。

■アオガイ *Nipponacmea schrenckii* : 小形種。低潮帯の転石の裏にすむ。逃げ足が速い。

■サクラアオガイ *Nipponacmea gloriosa* : 小形種。干潮線付近の転石下に生息するが多くない。

【コウダカカラマツガイ科】

■カラマツガイ *Siphonaria japonica* : 有肺類(カタツムリの仲間)に属する。高潮帯の岩上に生息。春に黄色い三日月状の卵塊を産みつける。

■キクノハナガイ *Siphonaria sirus* : 前種と同様に有肺類に属する。波当たりの強い場所を好み、前種と混在することはない。

磯観察の心得(予定の立て方)

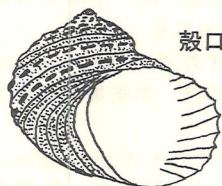
大潮の時期(満月・新月の前後数日間)に合わせ、釣情報誌や新聞などで日中の干潮時刻(場所によって異なる)を調べて予定を立てること。

季節は春(4月中旬から入梅前頃まで)が良い。このシーズンは昼間によく潮が引き、気候も温暖で、海藻も繁茂している。

干潮時刻の前2時間、後1時間を観察に充てる。

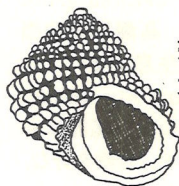
〈ニシキウズガイ科〉

実物の約2~4倍



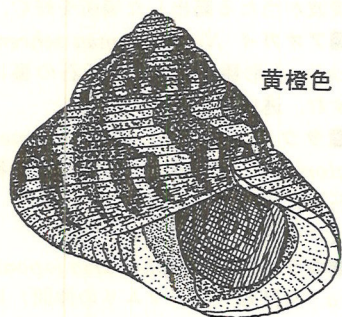
殻口内面に強い
真珠光沢

アシヤガイ



殻は重厚
大きないぼが
並ぶ

イボサンショウガイモドキ



黄橙色

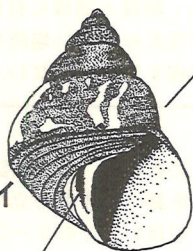
エビスガイ



赤紫色

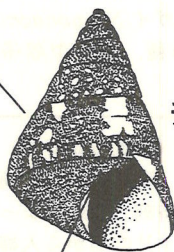
アワジチグサガイ

ハナ
チグサガイ



臍孔(へそ)が開く

赤っぽい

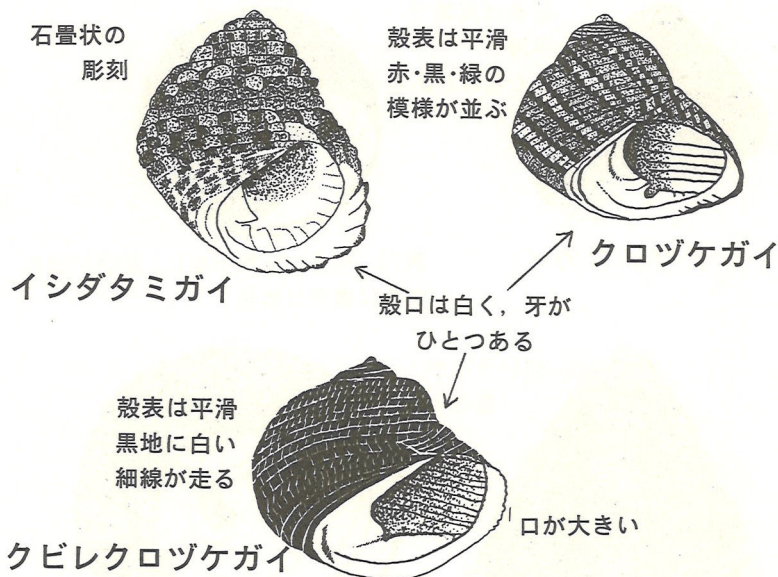


チグサガイ

臍孔はほとんど開かない

〈ニシキウズガイ科〉

実物の約2倍



【ニシキウズガイ科】

■アシヤガイ *Granata lyrata* : 低潮帯の転石の裏に付着する。

■イボサンショウガイモドキ

Euchelus pauperculus : 微小種。

低潮帯の転石の裏に付着する。

■エビスガイ *Tristichotrochus unicus* : 低潮帯の海藻の多いところに見られる。

■アワジチグサガイ *Awajitrochus mustelina* : 微小種。低潮帯の転石の裏などに付着する。

■ハナチグサガイ *Cantharidus callichrous callichrous* : 海藻の葉

上に付着する小形種。

■チグサガイ *Cantharidus japonicus japonicus* : 海藻の葉上に付着する小形種。

■イシダタミガイ *Monodonta labio confusa* : 潮間帯に広く分布し、ごく普通に見られる。

■クロツケガイ *Monodonta neritoides* : 中潮帯の転石下に限って生息する。

■クビレクロツケガイ *Monodonta perplexa* : 比較的波当たりの強い、高潮帯の岩上に限って生息する。前種と混在することはない。

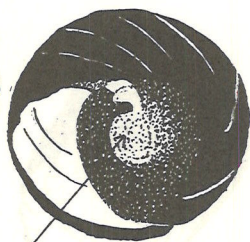
〈ニシキウズガイ科〉

実物大

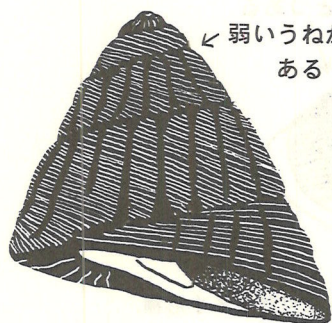


殻表は真黒で
平滑
ふくらみがある

クマノコガイ

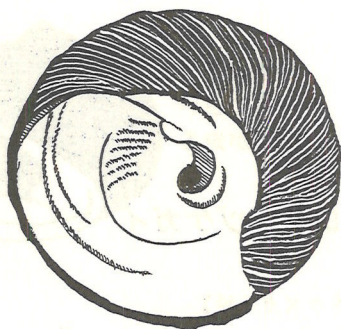


臍孔（へそ）は開かない。周囲が緑色
または黄色に着色



弱いうねが
ある

殻底は切取ったように平ら



バテイラ

【ニシキウズガイ科】

■クマノコガイ *Chlorostoma xanthostigma* : 前種と同様の場所に生息するが、数は多くない。

■バテイラ *Omphalius pfeifferi pfeifferi* : 大形の“がんがら”。よく潮が引いたときに干潮線付近で見つかる。

■クボガイ *Chlorostoma lischkei* : コシダカガンガラとともに食用にさ

れる“がんがら”の代表種。海藻のよく茂った低潮帯に普通に見られる。

■コシダカガンガラ *Omphalius rusticus* : 海藻のよく茂った低潮帯に普通に見られ、クボガイと混在する。

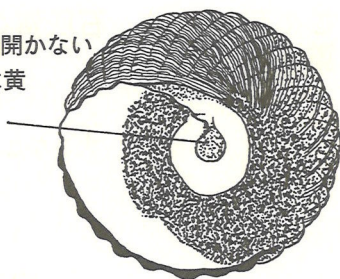
■ヒメクボガイ *Omphalius nigerimus* : 前種と同様の場所に生息するが、外洋性種で、大阪湾ではきわめて稀れにしか出現しない。

〈ニシキウズガイ科〉

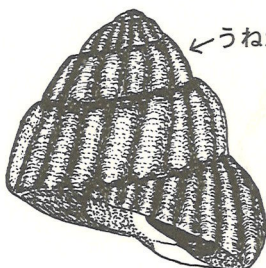
実物の約1.5倍



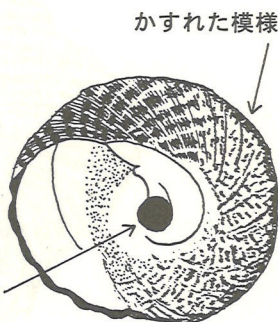
臍孔（へそ）は開かない
周囲が緑または黄色に着色



クボガイ



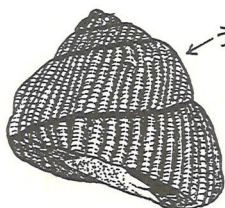
←うねがあら



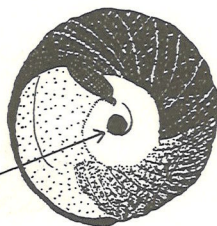
かすれた模様

臍孔は開く

コシダカガンガラ



←うねが細かい

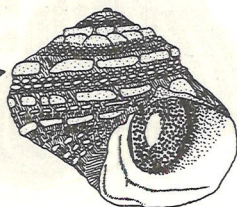


臍孔は開く

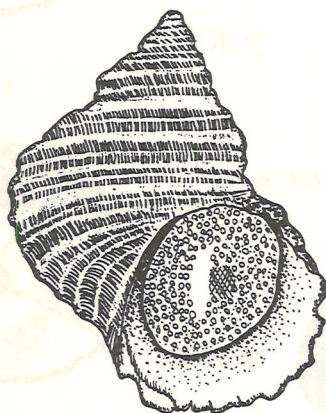
ヒメクボガイ

この科の貝は、石灰質の
重厚な蓋をもつ

大きなこぶが並ぶ→

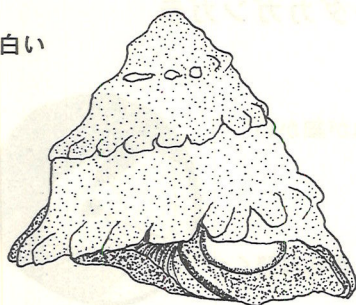


スガイ



サザエ

白い



ウラウズガイ

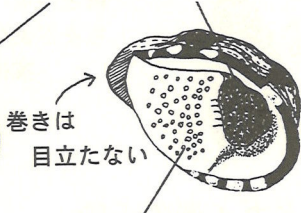
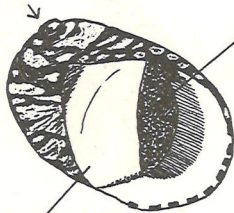
蓋の周縁と臍孔のまわりが紫色

〈アマオブネガイ科〉

実物の約3倍

巻きがはっきりしている

石灰質の板状の蓋



滑層は平滑で黄色っぽい

巻きは
目立たない

滑層には顆粒が発達する
白い

アマガイ

アマオブネガイ

【リュウテンサザエ科】

■スガイ *Lunella coronata coreensis*: 本来、中～低潮帯の岩上に生息するごく普通種であるが、近年、大阪湾では少なくなっている。

■サザエ *Batillus cornutus*: もともと潮下帯にすむ貝で、磯では、潮がよく引いた時にたまに見つかる程度。

■ウラウズガイ *Astraliium haemastragum*: 干潮線付近の岩上にすむ。外洋性種で、紀伊半島では普通に見ら

れるが、大阪湾ではごく稀れである。

【アマオブネガイ科】

■アマガイ *Nerita japonica*: 高～中潮帯の岩上にすむ。潮が引くと岩の割れ目や転石の下にかくれる。大阪湾では、産地が友ヶ島や城ヶ崎海岸（和歌山市深山）などに限られている。

■アマオブネガイ *Nerita albicilla*: 潮間帯に広く分布する。外洋性種で、紀伊半島では普通に見られるが、大阪湾ではめったに見られない。

磯観察の心得（危険防止）

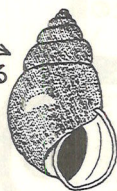
磯はすべりやすいので、転倒にはくれぐれも注意すること。特に海藻が生えている所やごろごろした転石の上は危険。ふざけたり走ったりしないこと。

大阪湾の磯には危険な動物はほとんどいないが、ハオコゼという魚には気をつける必要がある。水ぎわや潮だまりの海藻に生えた所にたくさんいることがある。逃げようとしないので簡単につかまえられるが、背びれのトゲに猛毒あり。図鑑で調べて姿を覚えておくのがよい。

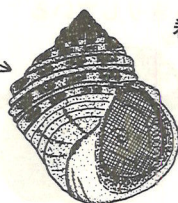
〈カワザンショウガイ科・タマキビガイ科〉

実物の約3~4倍

褐色で
つやがある



褐色の地に
さまざまな
模様

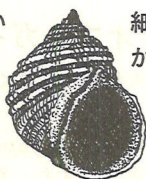


巻きに沿った
うねが発達
いぼや顆粒
はない

ヘソカドガイ属の1種

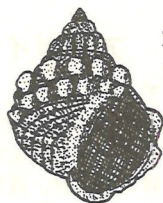
タマキビガイ

白っぽい



細かい顆粒
が並ぶ

大きな白い
いぼが並ぶ



アラレタマキビガイ

イボタマキビガイ

【カワザンショウガイ科】

■ヘソカドガイ属の1種 *Paludine-
lla* sp.: 微小種。高潮帯の転石上に
付着するが、産地は友ヶ島などに限
られている。

【タマキビガイ科】

■タマキビガイ *Littorina brevicu-
la*: 乾燥に強い小形種。どこかの海岸
でも、高潮帯におびただし数で散
らばっている。

■アラレタマキビガイ *Granulili-
ttorina exigua*: 前種と同様に高密
度で、前種と混在するが、より上位
の飛沫帯にまで分布が及ぶ。

■イボタマキビガイ *Granulilittori-*

na pyramidalis: 外洋性種で、大
阪湾では友ヶ島の南岸などの限られ
た所にだけ分布している。アラレタ
マキビよりさらに高いところに生息
する。

【ムカデガイ科】

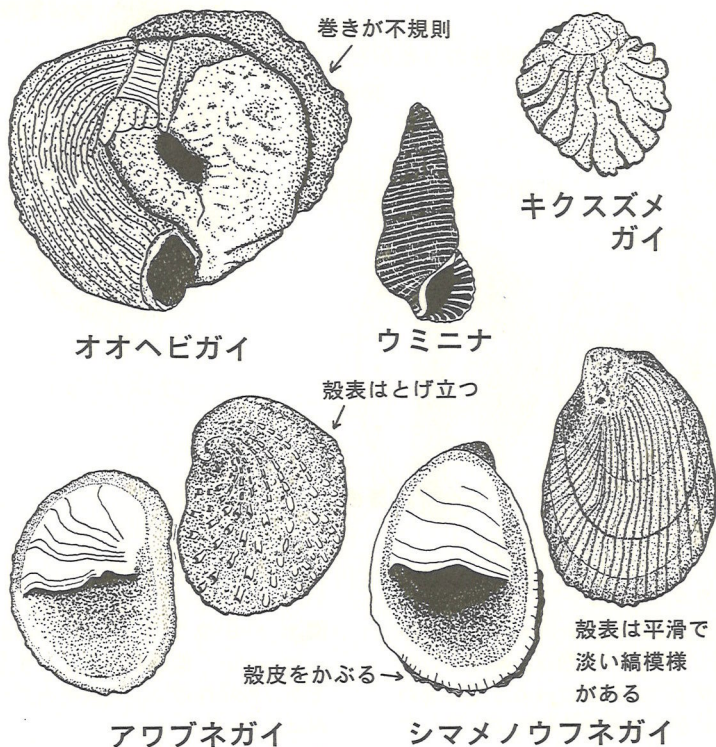
■オオヘビガイ *Serpulorbis imbri-
catus*: 低潮帯の岩上に固着する。
水中に粘糸を出し、たぐりよせて餌
を集める(表紙画参照)。

【ウミニナ科】

■ウミニナ *Batillaria multiformis*: 城ヶ崎海岸(和歌山市深山)
や住吉崎海岸(和歌山市大川)など
淡水が流入する磯に限って見られる。

〈ムカデガイ科・ウミニナ科・スズメガイ科・カリバガサガイ科〉

実物大 (キクスズメガイは3倍)



【スズメガイ科】

■キクスズメガイ *Sabia conica* :
アワビ類の殻に付着し、その排泄物を餌としている。

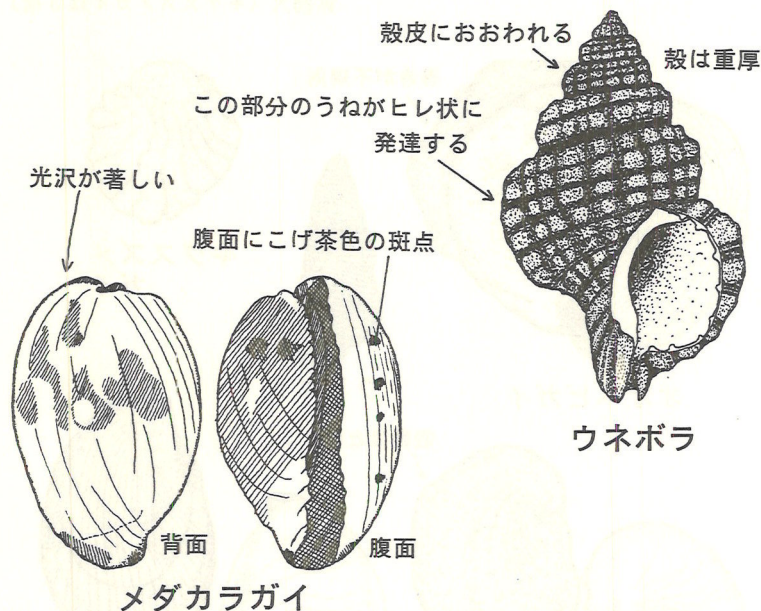
【カリバガサガイ科】

■アワブネガイ *Bostorycapulus gravispinosus* : 低潮帯の岩上に付着するがあまり多くない。巻貝とし

ては珍しく、水中の浮遊・懸濁物を集めて餌としている。

■シマメノウフネガイ *Crepidula onyx* : 北アメリカ原産で、1970年代に日本各地に広がった。前種より大形で、個体数も多い。他の巻貝に外部寄生すると言われていたが、直接岩に付着することが多い。

〈タカラガイ科・フジツガイ科〉 メダカラガイは実物の約3倍、ウネボラは2倍



【タカラガイ科】

■メダカラガイ *Purpuradusta gracilis*: タカラガイ類は、南方系のグループで、大阪湾にはめったに現われないが、本種は比較的良好に見つかる。

【フジツガイ科】

■ウネボラ *Gyrineum natator*: 潮下帯にすむ種で潮がよく引いた時でないとは見つからない。近年の大阪湾では記録が無い。

【アクキガイ科】

■カゴメガイ *Bedevina birileffi*: 前種と同様、湾内での記録は少な

い。

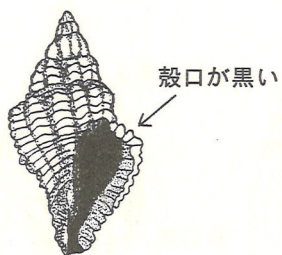
■ヒメヨウラクガイ *Ergalatax contractus*: 低潮帯の岩上に生息するが、外洋性種で、大阪湾内での記録は少ない。

■イボニシ *Reishia clavigera*: 中～低潮帯に普通に見られる。肉食性で、イワフジツボなどの固着性の動物を捕食する。

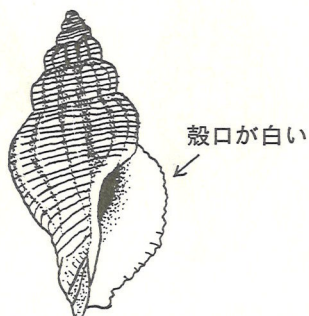
■レイシガイ *Reishia bronni*: 前種と同様の生態であるが、生息域は低潮帯以下に限られる。より大形の動物を捕食していると考えられる。

〈アクキガイ科〉

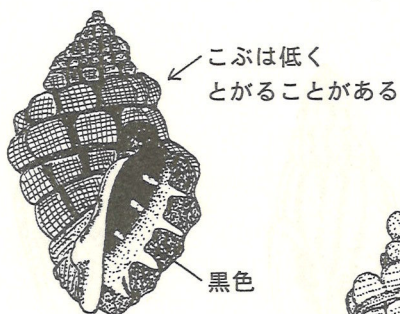
実物の約2倍



カゴメガイ



ヒメヨウラクガイ



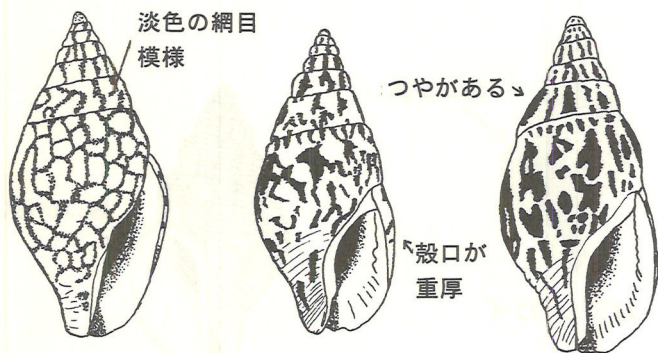
イボニシ



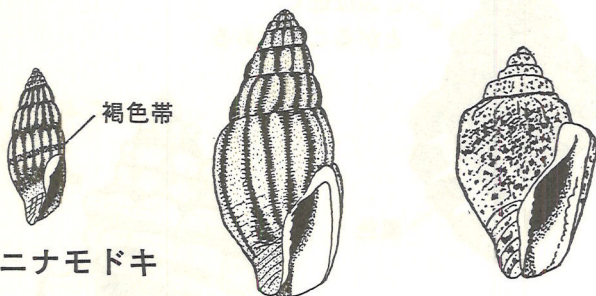
レイシガイ

〈タモトガイ科〉

実物の約3～4倍



マツムシガイ ムキガイ コウダカマツムシガイ



ノミニナモドキ

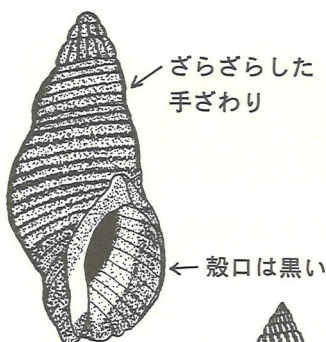
ボサツガイ フトコロガイ

【タモトガイ科】

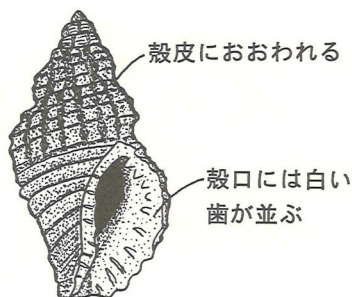
■マツムシガイ *Pyrene testudinaria*: 海藻に付着する。大阪湾内での記録は少ない。

■ムキガイ *Mitrella bicincta*: 低潮帯の転石や岩上に見られる普通種。

■コウダカマツムシガイ *Mitrella burcardi*: 前種と同様の生態で、殻の形態も非常によく似ていて、見分けにくい。図鑑などには螺塔の上部に縦肋が発達すると記載されているが、必ずしもそうではない。



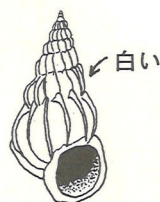
イソニナ



シワホラダマシ



ヨフバイ



ネジガイ

■ノミニナモドキ *Zafra mitrifor-*
mis: 微小種。海藻に付着する。

■ボサツガイ *Anachis misera*
misera: 低潮帯の岩礫上に見られる。大阪湾では田倉崎海岸(和歌山市加太)で普通に見られる。

■フトコロガイ *Euplica versicolor*:
低潮帯の海藻の間に生息するが、大阪湾内での記録はきわめて少ない。

【エゾバイ科】

■イソニナ *Japeuthria ferrea*: 友ヶ島南岸や小島明神崎(岬町)などの波当たりの強い海岸に限って出現する。中~低潮帯に生息。肉食性。

■シワホラダマシ *Pollia mollis*:
生時は殻表にカイウミヒドラ(腔腸動物)が一面に着生し橙色に見える。大阪湾内では稀れで、近年はまったく記録が無い。

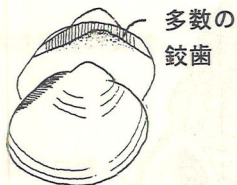
【オリイレヨフバイ科】

■ヨフバイ *Telasco sufflatus*: 低潮帯以下の転石下の砂泥上にすみ、腐肉をあさる。

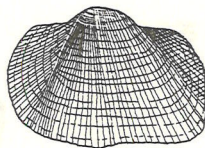
【イトカケガイ科】

■ネジガイ *Gyroscala perplexa*:
イソギンチャク類の体表に寄生し、体液を吸うことで知られている。

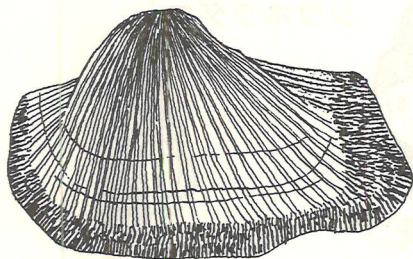
〈クルマガイ科・フネガイ科〉 実物の約2~3倍 (コベルトフネガイは実物大)



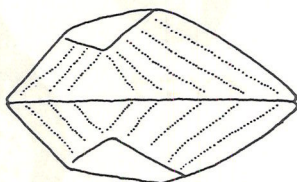
マメクルマガイ



ミミエガイ



コベルトフネガイ

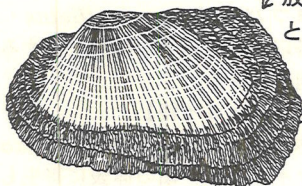


幅が著しく広い

*略図は背面から見たところ

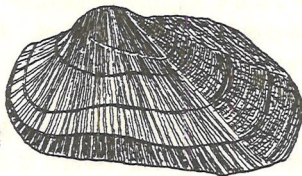
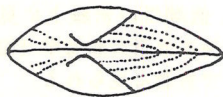


↓放射肋は細く
とぎれがち



殻皮が
よく発達

エガイ



カリガネエガイ

【クルミガイ科】

■マメクルミガイ *Nucula paulula*:
微小種。低潮帯以下の砂泥地に生息
する。

【フネガイ科】

■ミミエガイ *Arcopsis symmetri-*
ca: 小形種。低潮帯に分布。転石の
裏に足糸で付着する。

■コベルトフネガイ *Arca boucardi*:
干潮線以下潮下帯に生息。ワカメな
どの大形褐藻類の付着根をはがすと

採集できる。

■エガイ *Barbatia lima*: 潮間帯に
広く分布するが、近年は多くない。
岩の割れ目に入り込み、足糸で固着
している。

■カリガネエガイ *Barbatia vires-*
cens obtusoides: 潮間帯に広く分
布するが、大阪湾では近年減少傾向
にある。岩の割れ目に足糸で固着し
ている。

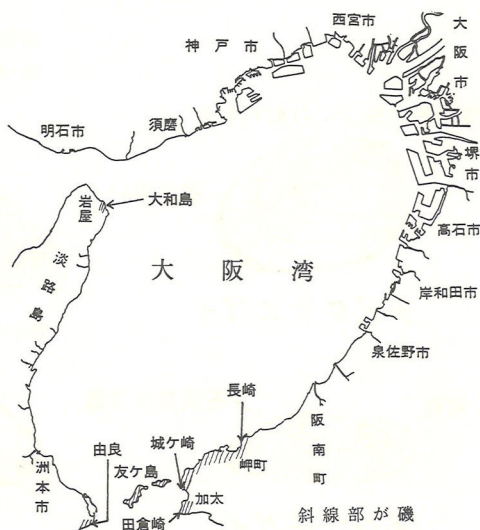
大阪湾の磯ガイド

京阪神に住む人が磯の自然を観察するには、日帰りで岬町や和歌山市加太の海岸に出かけるのがよいでしょう。ピクニックもかねて。

手近なのは岬町の長崎(長松)海岸です。南海電鉄のみさき公園駅から徒歩で公園の中を通り抜けて海岸に出、海岸道路を西に約10分歩いた所です。自然海浜保全地区を表示した看板が立っています。

加太方面では、南海電鉄加太駅から、淡島神社を経て灯台のある岬まで行くと、田倉崎海岸です。逆に海水浴場を経て北へ行けば、国民休暇村「城ヶ崎荘」の下にも広い磯があります。どちらも徒歩約30分。

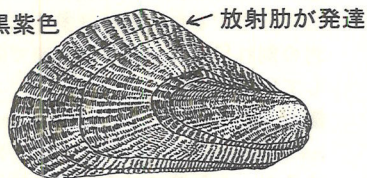
友ヶ島は島全体が自然海岸に囲まれています。時間はかかりますが、一度は訪ねてみたらよい所です(加太港から観光船)。



〈イガイ科〉

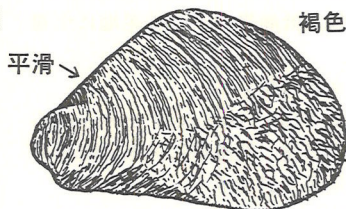
実物の約倍2～3倍

黒紫色



ヒバリガイモドキ

褐色



ヒバリガイ

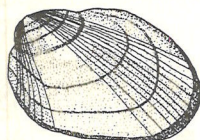
殻皮上に毛がはえている

クログチガイ



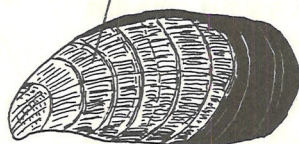
中央部分の殻皮ははげていることが多い

黄褐色の殻皮におおわれる



殻は薄い

チビタマエガイ

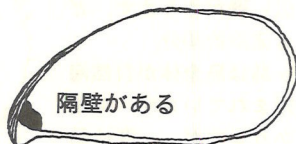


若い時には放射肋がある

褐色



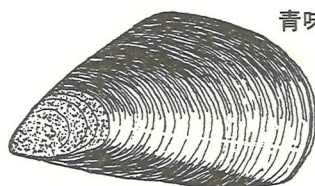
イシマテガイ



隔壁がある

殻の内面 (略図)

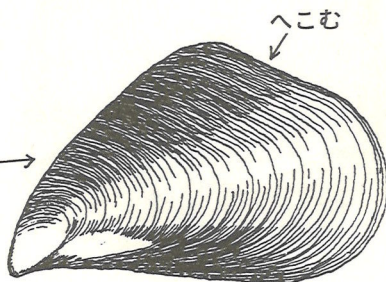
ムラサキインコガイ



青味がかかる

ムラサキイガイ

褐色がかかる→



イガイ

【イガイ科】

■ヒバリガイモドキ *Hormomya mutabilis*: 固い基盤上に一面に付着して、ベッドを形成する習性がある。紀伊半島では普通に見られるが、大阪湾では最近、城ヶ崎（和歌山市深山）で記録された。

■ヒバリガイ *Modiolus nipponicus*: 中～低潮帯の岩上に足糸で付着。ベッドを形成することはない。

■クログチガイ *Vignadra atrata*: 小形種。高～中潮帯の、イワフジツボの空き殻の中などをすみかとしている。

■チビタマエガイ *Gregariella coralliphaga*: 小形種。低潮帯の岩や転石上に足糸で付着する。

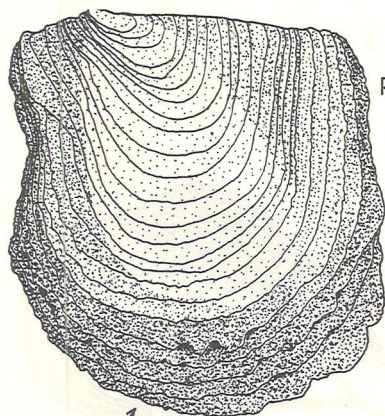
■イシマテガイ *Lithophaga curta*:

砂岩などに穿孔する。石を割らなければ生貝はなかなか採集できない。

■ムラサキインコガイ *Seprifer virgatus*: 波当たりの強い所に足糸で付着する。紀伊半島の海岸では密集群を形成するが、大阪湾ではまばらにしか付着しない。

■ムラサキイガイ（チレニアイガイ）*Mytilus galloprovincialis*: 地中海原産の帰化種。食用にする「ムール貝」とは本種のこと。湾内の人工護岸ではきわめて普通に見られる。近年では岬町などの自然海岸においても常に見られるようになっている。

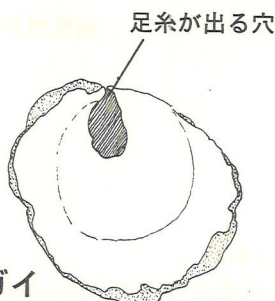
■イガイ *Mytilus corsucus*: 在来種で、セトガイなどとも呼ばれる。潮通しのよい海岸の潮下帯を中心に生息する。前種より大きくなる。



内面は真珠光沢

アコヤガイ

成長端が重なり合う



足糸が出る穴

ナミマガシワガイ

右殻（図手前）で岩に付着する
殻は薄く、光沢がある

【ウグイスガイ科】

■アコヤガイ *Pinctada fucata martensii* : 養殖真珠の母貝となる。足糸で岩上に付着する。

【ナミマガシワガイ科】

■ナミマガシワガイ *Anomia chinensis* : 岩上に足糸で付着する。現在の大阪湾ではほとんど見られない。

【イタボガキ科】

■ケガキ *Saccostrea kegaki* : カキ類は左の殻で岩に固着し、右の殻が蓋の役目を果たしている。本種は外洋性のカキで、大阪湾の内部には分

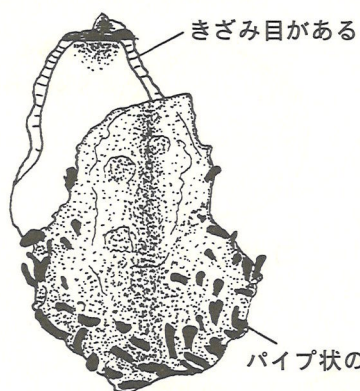
布しない。岬町～和歌山市加太の岩礁域に見られるが多くない。高～中潮帯に生息。

■マガキ *Crassostrea gigas* : 食用にされる内湾性のカキで、大阪湾の内部の人工護岸にも広く分布する。岬町の岩礁海岸にも多い。高～中潮帯に生息。

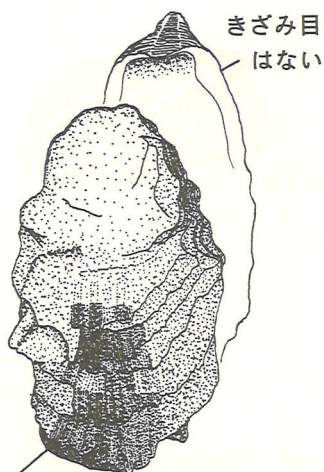
■イワガキ *Crassostrea nippona* : 干潮線以下潮下帯の深所に生息。大きくなる。磯観察で見かけることは少ない。

〈イタボガキ科〉

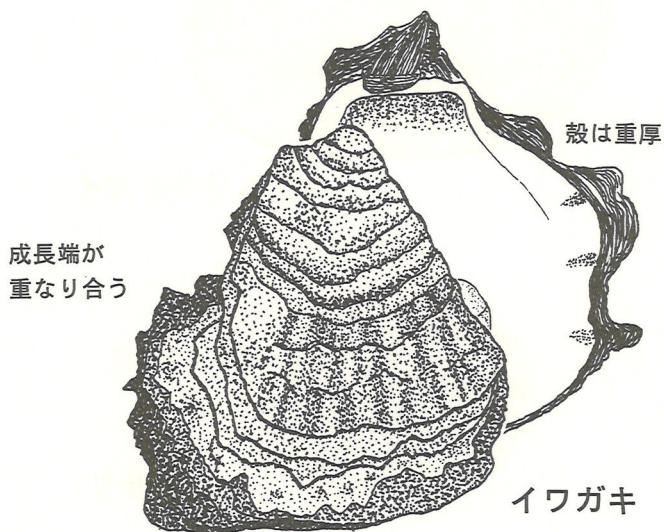
実物大



ケガキ



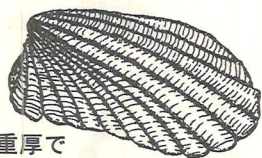
マガキ



イワガキ

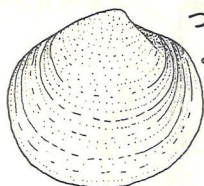
〈トマヤガイ科・コフジガイ科・マルスダレガイ科〉

トマヤガイ、コハクノツユは実物の約2倍、他は実物大



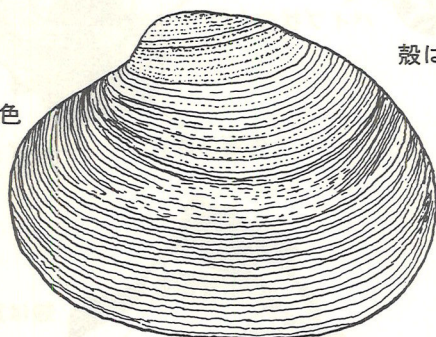
殻は重厚で
よくふくらむ

トマヤガイ



つやがある
よくふくらむ

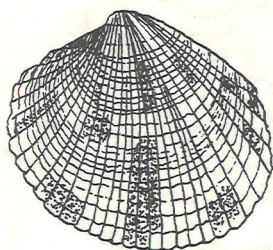
コハクノツユ



殻は重厚

内面は黒紫色

ウチムラサキガイ



あらい放射肋

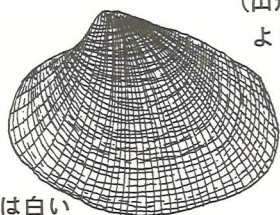
オニアサリ

〈マルスダレガイ科〉

実物の約1.5～2倍

(山形の模様が
よく見られる)

稜角がよく
発達する



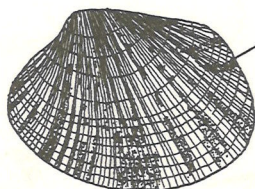
内面は白い

アサリ



マツカゼガイ

アサリと比べて
彫刻がやや弱い



黒い斑点や帯が
特徴的

ヒメアサリ

内面は黄色または
ピンクを帯びる

【トマヤガイ科】

■トマヤガイ *Cardita leana* : 中～低潮帯の岩の割れ目に足糸で付着している。普通に見られる。

【コフジガイ科】

■コハクノツユ *Kellia porculus* : 中～低潮帯の岩の間の砂だまりに生息する。

【マルスダレガイ科】

■ウチムラサキガイ *Saxidomus purpuratus* : 大形種で食用に供される。潮下帯に分布。磯では打ち上げの殻がよく見つかる。

■オニアサリ *Notochione jedoensis* : 中～低潮帯の転石下の砂泥中に生息。

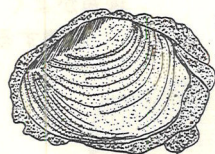
■アサリ *Ruditapes philippinarum* : 磯では転石下の砂泥中に生息。オニアサリと混在する。

■ヒメアサリ *Ruditapes variegatus* : アサリより外洋性であるといわれ、友ヶ島などで記録されている。両種の見分けはむずかしいので注意が必要。

■マツカゼガイ *Irus mitis* : 砂岩や泥岩に穿孔する。大阪湾での記録は多くない。

〈イワホリガイ科・キヌマトイガイ科・クチベニガイ科・ニオガイ科〉

実物の約1.5～2倍



右殻が左殻を
抱きかかえる

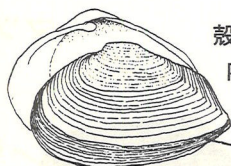
セミアサリ



稜角が発達

殻は白い

キヌマトイガイ

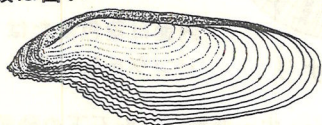


殻は白く堅固
内面の周縁はピンク

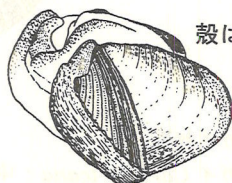
殻皮

クチベニデガイ

殻は白い



ニオガイ



殻は白い

カモメガイ

【イワホリガイ科】

■セミアサリ *Claudioconcha japonica* : 多毛類のヤッコカンザシゴカイの密集群中に穿孔しているのがよく見られる。

【キヌマトイガイ科】

■キヌマトイガイ *Hiatella orientalis* : 小形種。低潮帯以下に分布。ワカメの付着根などから見つかる。

【クチベニガイ科】

■クチベニデガイ *Anisocorbula venusta* : 転石の間の砂泥中から見つかる。大阪湾内での記録は少ない。

【ニオガイ科】

■ニオガイ *Barnea manilensis* : 泥岩に穿孔する。岬町～加太の磯にはこの種の穿孔性二枚貝による穴が多数見られる。

■カモメガイ *Penitella kamakurensis* : 前種と同様に泥岩に穿孔する。

和 名 索 引

アオガイ 図版Ⅱ, 4	キクスズメガイ 13
アコヤガイ 22	キクノハナガイ 図版Ⅱ, 4
アサリ 25	キヌマトイガイ 26
アシヤガイ 6	クサイロアオガイ 図版Ⅱ, 4
アマオブネガイ 11	クチベニデガイ 26
アマガイ 11	クビレクロツケガイ 7
アラレタマキビガイ 12	クボガイ 9
アワジチグサガイ 6	クマノコガイ 8
アワブネガイ 13	クモリアオガイ 図版Ⅱ, 4
イガイ 21	クロアワビ 2
イシダタミガイ 7	クログチガイ 20
イシマテガイ 20	クロツケガイ 7
イソニナ 17	ケガキ 23
イボサンショウガイモドキ 6	コウダカアオガイ 図版Ⅱ, 4
イボタマキビガイ 12	コウダカマツムシガイ 16
イボニシ 15	コガモガイ 図版Ⅰ, 4
イワガキ 23	コシダカガンガラ 9
ウチムラサキガイ 24	コハクノツユ 23
ウネボラ 14	コベルトフネガイ 18
ウノアシガイ 図版Ⅰ, 4	サクラアオガイ 図版Ⅱ, 4
ウミニナ 13	サザエ 10
ウラウズガイ 10	シマメノウフネガイ 13
エガイ 18	シロスソカケガイ 3
エビスガイ 6	シワホラダマシ 17
オオヘビガイ 13	スガイ 10
オトメガサガイ 3	スソカケガイ 3
オニアサリ 24	セミアサリ 26
カゴメガイ 15	タマキビガイ 12
カスリアオガイ 図版Ⅱ, 4	チグサガイ 6
カモガイ 図版Ⅰ, 4	チビタマエガイ 20
カモメガイ 26	チレニアイガイ 21
カラマツガイ 図版Ⅱ, 4	トコブシ 2
カリガネエガイ 18	トマヤガイ 24

ナミマガシワガイ	22	ボサツガイ	16
ニオガイ	26	マガキ	23
ネジガイ	17	マダカアワビ	2
ノミナナモドキ	16	マツカゼガイ	25
ハナチグサガイ	6	マツバガイ	図版 I, 4
バテイラ	8	マツムシガイ	16
ヒバリガイ	20	マメクルミガイ	18
ヒバリガイモドキ	20	ミミエガイ	18
ヒメアサリ	25	ムギガイ	16
ヒメクボガイ	9	ムラサキインコガイ	20
ヒメヨウラクガイ	15	メダカラガイ	14
ヒラスカシガイ	3	ヨフバイ	17
フトコロガイ	16	ヨメガカサガイ	図版 I, 4
ヘソカドガイ属の1種	12	レイシガイ	15
ベッコウガサガイ	図版 I, 4		
ホソスジアオガイ	図版 II, 4		

参 考 文 献

- 波部忠重監修 (1975) 学研生物図鑑⑦ 貝 I [巻貝]. 学習研究社.
- 波部忠重監修 (1975) 学研生物図鑑⑧ 貝 II [二枚貝 陸貝 イカ タコほか]. 学習研究社.
- 奥谷喬編・監修 (1986) 決定版 生物大図鑑 貝類. 世界文化社.
- 佐々木猛智・奥谷喬司 (1993) 新属 *Nipponacmea*: 従来 *Notoacmea* とされていたアオガイ類の再検討. 貝類学雑誌52(1): 1-40 (英文).

ミニガイドNo.11 大阪湾の磯の貝—見分け方入門—

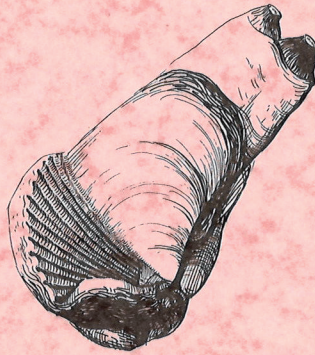
編 著 山西良平 (大阪市立自然史博物館: 動物研究室)

発 行 大阪市立自然史博物館
〒546 大阪市東住吉区長居公園1番23号

発 行 日 1994年 3月31日

印 刷 光栄堂印刷株式会社

© 大阪市立自然史博物館, 1994



K.H

カモメガイ